

## 令和7年度泉州薬事懇話会 議事概要

開催日時：令和8年1月14日（水）午後2時から午後3時20分

開催場所：大阪府泉佐野保健所 3階 講堂

出席委員：委員12名のうち10名出席

辻内委員、北野委員、平松委員、炭谷委員、西村委員、道明委員、八田委員、山原委員、今井委員、石川委員

### ■ 議事

#### （議題1）災害時の医薬品等の確保に関する体制構築の推進について

資料に基づき、市町の委員から進捗状況について報告。

続いて、地域薬剤師会の委員から各市町との連携の進捗状況について報告。

#### （意見等）

- 高石市が導入予定のスマートフォンアプリは具体的に決まっているのか、スマートフォンはどこに設置するのか、回線がパンクして使えない場合の議論はしているのか。  
→決定ではないが、アプリはラインワークスを試用予定、市役所に1台設置、アプリで連絡を密にするところから始め、その後種々議論する予定。
- 熊取町の災害時医薬品等の備蓄・供給契約について、町で備蓄のための予算を計上し、この予算で薬剤師会が備蓄用医薬品の購入をしているのか。  
→会員薬局の流通医薬品を使う想定であり、予算はシステムメンテナンスにかかる経費である。
- 泉佐野保健所災害時保健医療体制構築ワーキングで災害時の初動対応のマニュアルを作成して、医薬品の供給体制や要請の流れについて文書化している。
- 災害薬事コーディネーターの立場から発言すると、本部コーディネーターと地域コーディネーターでは役割が異なる。医薬品について、本部では卸売販売業者に必要な医薬品の数を連絡することが主な業務であり、地域の薬局から医薬品の提供を受けて配付する等の業務は想定していない。地域コーディネーターはそのような訓練が必要になるのではないか。
- 各市町の体制構築の大枠は決まっているが、細部の具体的などころがまだ決まっていないのが課題である。本日の内容を参考に、災害時の医薬品等の確保体制について、引き続き市町と地域薬剤師会との具体的な連携を進めていただければと思う。

## (議題 2) 地域連携薬局をめぐる状況について

資料に基づき、大阪府健康医療部生活衛生室薬務課から認定薬局について説明。

続いて、泉佐野保健所生活衛生室薬事課から泉州圏域の地域連携薬局の現況について説明。

### (意見等)

- 泉州地域では認定薬局が減っているが、増えている地域での増加要因が分かると泉州地域の参考になる。
- トレーシングレポートは、必要な情報を適切に医師に情報提供し患者の安心安全を担保するもの。件数の縛りが本当に必要かと疑問に思っている。また、共有する情報の内容については吟味が必要である。
- 支部内に地域連携薬局がないことについて、認定条件である無菌製剤の処理ができる薬局が支部内にないことが課題だと認識しており、対応しようと考えているところ。
- 薬務課も保健所も地道に認知度向上に向けた取組みや原因分析などを続けている。地域薬剤師会としても、研修会等において啓発を続け、会員向けの周知を積極的にお願いしたい。

## (議題 3) 各地域薬剤師会の活動概要について

- 泉州圏域の各地域薬剤師会の活動について事務局から概要を説明。